群馬県精神保健福祉士会　令和６年度第２回倫理委員会
2024.6.18（火）19：00～　オンライン開催
参加者：林、神尾、白鳥、工藤、中嶋、長嶋、堀ノ上、松井、横澤

1.　今年度の取り組みについて
１）２月に参集型での研修を開催
・研修内容については、8 月に県士会のメーリングリストを活用し、会員が委員会に期待することなどをアンケート実施し検討していく。

２）委員会の仕組みづくりについて
・アンケートを実施し、会員から委員会に対するイメージや期待することなどの抽出を行う。
・今年度の法改正で虐待通報が義務化されたことに伴い、MHSW が虐待を目の当たりにした際、葛藤を抱え協会に相談があるのではないか。その為の窓口が必要ではないか。
・日本協会や県協会で倫理的な相談はあるか？
⇒構成員からの相談窓口はないが、当事者からの相談窓口はある。事務局が窓口となり相談内容を三役で諮り検討している。苦情のガイドラインは、今後、三役が作成予定。
・県協会に委員会が絡んで、意見や助言、検討する役割があってもよいか。
・虐待防止の案件が出た場合、県協会より倫理委員会が窓口になる方があっているのではないか。
・委員会は MHSW が自分の職場での葛藤や相談などの足場になるイメージ。デリケートな問題はトリアージしていくことが必要。
・委員会はジャッジする機能よりサポートする機能との話だった。意見を言う機能があっても良いか。
・会員へのクレームや相談内容で委員会が寄与できる部分があると思うが、個人への批判めいたものを一会員として知りすぎてしまう怖さがあり、委員会が関わって良いのかと思う。
・事務局の相談に入ることは一会員でありそこまでの関与は難しい。ハードルが高い。委員会として初めに線引をしておく必要がある。
・ピア的な支援、伴走型の支援がキーワードとしてあった。
・委員会のコンセプト、ジャッジしない、困っている会員と一緒に考える方向で行ってみる。窓口機能や検討の場として広げ過ぎない方が良いと思う。会員同士の助け合いの精神を基本に行っていくほうが良い。
・会員に相談したい、意見を聞きたい、問題解決に向けた助言が欲しいなど、緩やかで

柔らかい感じの意見交換の場としての機能もあると思う。

・会員が仕事上での困り事や悩みを募集して、一緒に考えることが最初の活動として良いと思う。
・倫理というと硬いが、モヤッとしたことを共有できる場。
・アンケートを取る中で、どんな話がくるのか、他者の話を聞いて見えることや相談に乗ることでわかることもあると思う。話を共有し、次に活かしながらブラシュアップしていくほうが良い。
・他者の支援を見て自分がどう思い、感じたかを話し合える場。
・他者に話したことや聞いたことが振り返りや権利擁護に繋がる。
・相談したい人に対しグループワーク的にするのか個別でする方が良いか。
・個別は負担が大きい。委員会はグループでの相談。個別相談は委員会と切り離した方が良い。
・悩みなどを募集するが窓口をどう作るか。
・Zoom サロンと一緒に一度やってみて、その後に委員会で考えるか。
・委員会は会員の悩み等の支援が大きな役割だと思う。相談や悩みの募集も方法の一つだと思うが、委員会で自分の振り返りを投げかけて自分自身で考える機会をつくることで質の向上に繋がるとも思う。
・虐待や人権擁護を考える場でチェックすることが目的ではない。委員会で悩みを共有する場として大切だと思う。会員の中に組織の中で困ったり葛藤を抱えていいんだよという大元のところを大切にしていけると良いと思う。
・委員会は何をするところか、会員が委員会に何を期待しているか。アンケートで委員会に期待することを聞いてみて、皆の共有の認識の中で出来ていく。皆の物に出来たらと思う。

2）今後の取り組み

・県士会のメーリングリストを活用しながら、委員会からのお知らせを出しつつ、委員会にどんな機能を期待したいか、イメージ等を聞いていく。日々の相談窓口は中長期的な目標としていく。
・2 月の研修は、意見が集約できたところで、倫理や人権について振り返る研修になればと思う。
・会員向けの発信内容については次回会議までに検討。会議後に発信していく。
・アンケートに委員会に何を期待するか、困りごとなどを聞くことで色んなニーズが見えてくると思う。